

| | | | |
|---|--|------|-------|
| 授業科目名 | ソーシャルワーク演習 | 単位数 | 2 |
| 担当教員名 | 砂田 淳一郎・大溝 茂 橋本 夏実・矢原 絵理 | 担当形態 | オムニバス |
| 実務内容 (実務家教員の場合) | 社会福祉士として福祉現場の経験がある教員が、実践的視点からソーシャルワーク演習について解説する。 | | |
| <p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>本科目は「ソーシャルワーク演習」を通して、様々な問題を抱える人や社会に対し「人や人」「人を環境」を繋げ、効果的な解決策を考えていく。このプロセスを通すことにより、自律的な課題探求能力を身に付けていくことを目的とする。</p> | | | |
| <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>(1) ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士として求められる基礎的な能力について理解する。</p> <p>(2) ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。</p> <p>(3) ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力について理解する。</p> <p>(4) ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>社会福祉士は、現代に生きる人の問題を解決しようとする支援者である。権利擁護、民主主義の人間普遍の原理、「価値」「倫理」「知識」「技術」の専門性を活力と方針で活かし、社会福祉の向上とクライアントの自己実現を目指すことが本来の目的である。そのため「価値」「倫理」から生まれる活力や方針を自己調整しつつ、「知識」「技術」の専門性を積み重ねることでクライアントとの信頼関係を強固にし、ニーズ解決に向けて調整能力を磨くことが重要である。そこで、本科目では、社会福祉士に必要なソーシャルワークの基本技術等について演習形式の講義を中心に学ぶ。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：自己覚知と他者理解</p> <p>第3回：基本的なコミュニケーション技術（1）</p> <p>第4回：基本的なコミュニケーション技術（2）</p> <p>第5回：基本的な面接技術（1）</p> <p>第6回：基本的な面接技術（2）</p> <p>第7回：ソーシャルワークの展開過程（1）</p> <p>第8回：ソーシャルワークの展開過程（2）</p> <p>第9回：ソーシャルワークの展開過程（3）</p> <p>第10回：ソーシャルワークの展開過程（4）</p> <p>第11回：ソーシャルワークの展開過程（5）</p> <p>第12回：ソーシャルワークの記録</p> <p>第13回：グループダイナミクスの活用</p> <p>第14回：プレゼンテーション技術</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p> | | | |

スクーリングでの学修内容

スクーリングでは、①社会福祉専門職者としての職業倫理を身につけ、それに基づき行動できる能力の習得、②具体的な課題別のソーシャルワーク事例等を活用して、生活に密着した総合的援助の実践的手法の習得、③ソーシャルワーク実習後（実習免除者は福祉現場経験）の振り返りなどを集団で学び合う。また、基本的なソーシャルワークの概念や倫理を復習するとともに、グループワークを通して共同学修を行う。

教科書

なし

参考文献

必要に応じて適宜紹介する。

学生に対する評価

評価基準の詳細については、通常の科目と異なるため別途説明する。